

地元住民と学生を繋ぐ居酒屋郵便局

1110344 西川直希

高知工科大学工学部社会システム工学科

神母ノ木は川沿いに魅力的な町並みを持ち一昔前まではとても栄えていた。さらに近年では付近に大学も出来たこともあり若く元気な人材が豊富にいる。それらの事を含めて非常に高いポテンシャルを持った土地であると言える。しかし現在は交通上の問題、過疎化などが原因で土地が持つ特性は生かされていない。そこでそれぞれの問題に対応する空間整備を行う事でこの地域の可能性を模索する。

Key Words : 地元住民と学生を結ぶ郵便局、地域に活気を与える学生寮、川辺空間、繋ぐ空間、交通整備

1. 背景と目的

神母ノ木は高知県香美市にある物部川沿いの街道に面する地区である。その昔昭和初期のころ、ここでは物部村から切り出した木材を運ぶためいかに川を頻繁に横断していた。そのため当時この土地は比較的栄えていた。しかし、現在では香我美橋が出来たためこうした風習は完全になくなっていく。そして、空き家や空き家撤去後の空き地も所々にあり殺風景な景色が広がっている。また住民はほぼ高齢者のみで形成されている

神母ノ木は付近に大学があるため若い学生が周辺に住んでいてもおかしくはない。しかし学生が住むのに適した居住施設も来てみたいと思える施設も特にないため、多くの学生はこの地域を通学路として通り抜けてしまうだけで地域住民との関係を持つ機会はすくない。

しかしながら、神母ノ木はこうした様々な問題や課題を抱えながらも、今後もっと魅力的な土地になることの出来る可能性を秘めている。そこで当計画では問題点を整理し、それぞれの問題に対応する交通整備および施設の設置を行う。それによりこの神母ノ木の活性化をはかる。そして昔からこの地で暮らす地元住民と付近の大学の学生が何らかの形で交流を深めることのできるような環境を作る。それが双方にとって有意義な何かをもっているのならこの地域は活気を取り戻しより良い方向に向かっていくだろう。以上のことを実現できるような提案を試みる。

2. 敷地とその選定理由

当計画の敷地は神母ノ木のうち、香我美橋とそこから南側に位置する物部川沿いにある住宅群までとする。(図1) 本来この神母ノ木全域は旧街道によって有機的に繋がっていた。ところが現在は後に増設された橋からのびる国道により旧街道は分断されている。これは国道の利用者からは通り抜けるだけの道かもしれないが、住民からは旧街道を切断する迷惑な道にほかならない。しかしこの国道を神母ノ木を分断しない別の場所に移動できれば問題を解決し旧街道を生き返らせる事が出来る。

そして次に神母ノ木に活気に戻すために人を引きつける魅力をもった施設を設置する必要がある。そこで高知県古くから土着する文化として“酒”に着目した。実際にこの神母ノ木でも昼間から縁側で日本酒を飲む住民を見かけることもしばしばある。しかし現状の神母ノ木には居酒屋が一軒しかないため住民も付近の大学の学生も不便を余儀なくされている。以上の理由から“酒”を交えるコミュニティがあれば人は自然にここに集まると考えられる。しかしそうして魅力を持ったこの地に学生が住みたいと望んでも付近には学生が住むことの出来る居住設備はないので新たに作りたい。そして新しく住み始めた学生のと地元住民の交流の場として立地条件、付近の環境をふまえて現在神母ノ木にある郵便局の土地が有効だと判断できた。以上の事をふまえて郵便局としての機能は残したまま人と人との交流することができるフリースペースを持った神母ノ木型の郵便局を提案したい。こうした施設をそれぞれ作る場所として最適だと判断したためこの敷地を(図1)対象地区として設定する。

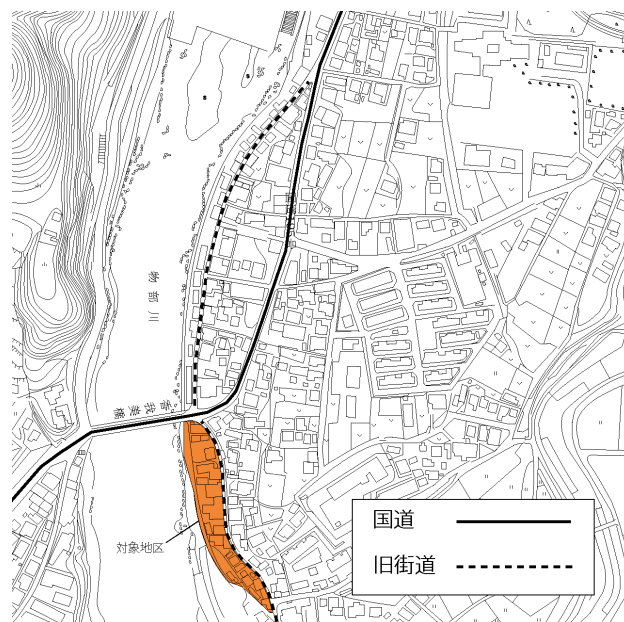


図1 対象地区平面図

3. 計画の指針

本計画では、以下の点を指針にすえて地域空間整備を行う。

3.1 地域の歩車分離の徹底（図2～4）

落ち着いた旧街道を車両専用の国道が分断することで当地域と近隣地域の行き交いが阻害され、またあまり広くない旧街道にも車両が進入する事で歩行者に取っては危険な状況が発生している。そこで車道が旧街道を横切らないように神母ノ木を横切る車両の通行を禁止する。そして北側に新しい橋と道をを増設し車両はそちらに流すようにすれば車道は完全に分離する事が出来る。

3.2 屋上に屋台が立ち並ぶ魅力的な学生マンションの設置（図5）

学生が住むことの出来る集合住宅を神母ノ木に作りたい。しかしこの地区には空き地や空き家は所々にあるが集合住宅を新設する事の出来るほどのスペースはない。そこで交通整備により歩行者のみしか利用されなくなった香我美橋を利用する。歩行者が通る最低限の通路は確保しながら橋の上部に集合住宅を増築するのだ。その際強度の問題があるのでその集合住宅をトラスで囲うことで対応していく。さらに屋上には出店や屋台を設置し、新旧住民が“酒”を飲んで楽しむ事のできる設備をもったマンションができる。こうした居住設備を橋に増築することで神母ノ木の活性化をはかる。

3.3 地域住民と学生を結ぶフリースペースを持った居酒屋郵便局の提案（図5）

神母ノ木には周辺の住民にしか利用されていない小さな郵便局がある。ここは旧街道に面した敷地の眼前には物部川が一望できる景色が広がっており、学生マンションと地域住民の住宅群のちょうど間に位置しているため、学生と地域住民が交流を持つには最適の敷地である。以上の理由からこの敷地には人と人の交流を促すフリースペースを持った郵便局を作りたい。しかしそれほどのスペースはこの敷地にはないため大きく川に張り出したテラスをもうけ、そこを屋台や出店で買ってきた“酒”をゆっくりと飲めるフリースペースとする。

3.4 新旧住民が交流できる

コミュニティの提案（図5）

マンションと住宅群を繋ぐ郵便局の設置によって物理的にも学生と地域住民の距離は縮まった。これらの施設を通じて新旧住民が“酒”を交えつつ交流を深めていく過程で地域は徐々に活気を取り戻し、他に類を見ない独自の発展遂げる可能性をもったコミュニティが完成する。

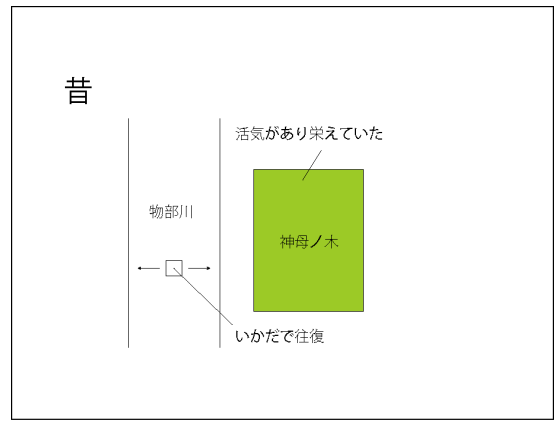


図2 ダイアグラム

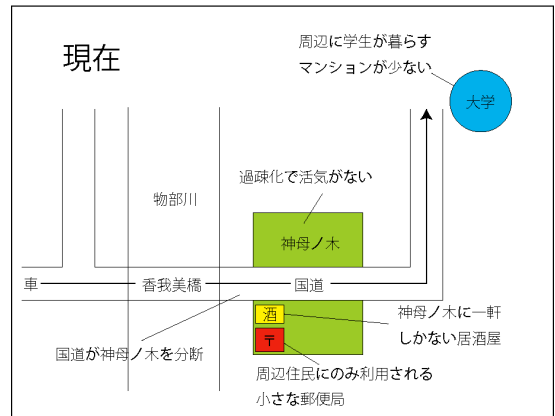


図3 ダイアグラム

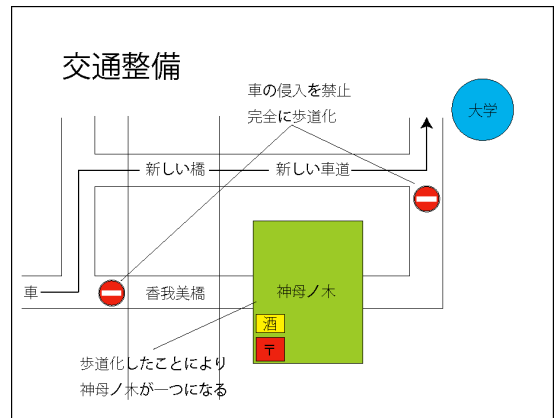


図4 ダイアグラム

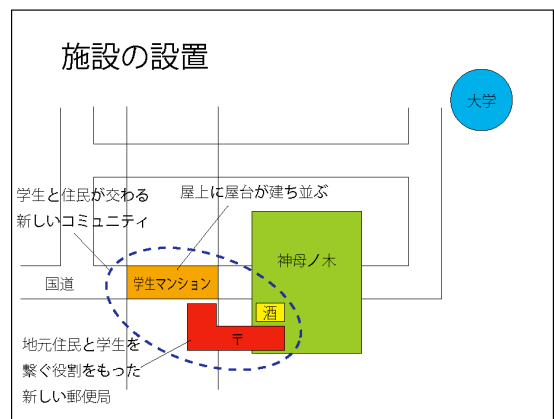


図5 ダイアグラム